

令和5年7月

ハトムギ栽培情報 第3号

氷見市農業技術者協議会
高岡農林振興センター氷見班
氷見市農林畜産課
JA氷見市営農販売課

- ・ 晴れ間を最大限に活用し、培土作業を行いましょ。 (分施の場合は、1回目培土時の追肥も忘れずに)
- ・ 水不足になると葉枯れを助長し、不稔粒が多発し、収量の低下を招きます。梅雨明け後、晴天が続く場合は、「うね間かん水」を行い、枯れ上がりを防止しましょ。

1 培土

- ・ 1回目の培土は、は種後30日頃、2回目は50日頃(草丈80~90cm)に実施しましょ。 ※雨で作業が遅れないように、早めの対応を心がけましょ。

2 追肥

- ・ 分施ほ場は、1回目培土時にLPコート100を40kg/10a施用しましょ。

3 かん水

- ・ ハトムギは、出穂始め(7月下旬)から成熟期(9月中旬)にかけ、最も水分を必要とします。葉先がよれてきたらすぐにうね間かん水を行いましょ。
- ・ うね間かん水は、ほ場全体に水が行きわたるように実施し、その後は自然落水としましょ。



水不足による葉巻



うね間かん水

4 病虫害防除

防除時期	対象病虫害	薬剤名	使用量、希釈する水量
7月初旬	葉枯病	ロブラール水和剤	薬剤 150g/10a
			水 150ℓ/10a
			8倍 3.2ℓ/10a
7月中 ~下旬	アワノメイガ	トアロー水和剤CT 又は パダン粒剤4	薬剤 150g/10a
			水 150ℓ/10a
			4kg/10a

パダン粒剤4とロブラール水和剤はドローン散布の登録がとれています。



<イナゴ類の発生が多い地域での防除対策>

イナゴ類は5~6月に孵化し、畦畔の雑草をエサにします。

集落ぐるみで草刈りを徹底し、エサ場をなくしましょ。

(ハトムギでイナゴ類に効果がある農薬の登録はありません。)

5 雑草防除 (薬剤名、使用量等はハトムギ栽培情報第2号を参照して下さい。)

- ・ プリグロックスLを散布する場合、播種後30~40日頃にハトムギにかからないよう丁寧に散布して下さい。